
生物災害

ゾンビ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

生物災害

【ZPDF】

Z0024D

【作者名】 ゾンビ

【あらすじ】

生物災害とは、英語で「バイオハザード」という意味です。楽しんでもらえると嬉しいです。

プロローグ

ここはアメリカ中西部の小さな田舎街、ラクーンシティ。ヨーロッパに本拠を置く製薬会社アンブレラがやつてきたことによつて、この街には大きな繁栄がもたらされた。

しかし、それは偽りの繁栄でしかなかつた。それは誰の目から見ても明らかであつた。にもかかわらず、人々は気付かなかつた。いや気付こうとしなかつたのだ。

その代償は、あまりに大きなものとなつて人々の前に現れた。アークリイ山中で起こつた獵奇事件を発端に、街は現世とは、かけはなれたものに変えつつあつたのだ。

始まり

「バンバンバンバン」

ラクーン市警特別部隊の銃声が鳴り響く

「くわー！ ゾンビどもめーー！ 上めりー！ 上めるんだー！ 打てー！ ひるむなー！ なんとしても止めるんだー！」

「バンバンバンバン」

「アーヴィング、おまえの手で作られた本は、

「ガシャーン！――！」

陝長！！過去命令有

「隊長！…もう無理です！隊長！…隊長…………」

そして外は静かになつた。
銃声も人の声も聞こえなくなつた。聞こえるのはあの忌々しいゾン
ビの声だけだつた。

そんな中1人の男がいた。

俺の名はアルス。今日はただ何の氣なしに家で昼寝をしていた。た
だそれだけだ。なのに…………。あのゾンビどもが俺の家にヅカ
ヅカとあがり込んできやがつた。そして今ここに逃げてきて隠れて
いる。ちくしょー！何なんだよ！あいつら！打つても打つても起
き上がつてきやがる俺のM92F^{ハンドガン}も弾切れしちまつた。

「くそ！…動かなきやあいつら臭いを嗅ぎ付けてやつてくる。まあそれなりの武器が必要だな。ケンド鉄砲店に行くか」

「……………そういえばクリスの野郎はどうなったんだろう。まさか特殊部隊とともに死んじやいないよな……………。」

生存者（前書き）

この回ではM92FがハンドガンでハンドガンがM92Fです。

生存者

アルスはケンド鉄砲店についた。

「カラソロロソ」

ドアを開けるとそこにはこのケンド鉄砲店の店長ロバート・ケンドの無残な死体があった。

「ロ……ロバート……」

このロバート・ケンドとは飲み仲間でつい何日か前も一緒に酒場へと繰り出したばかりだった。

「くそ！ロバート！！さつさと死んじまいやがって……！」

すると、ふいに奥から1人の男が現れた。

？？？

「誰だ……」

その男は銃を構える。アルス

「打つな！！人間だ！！！」

その男は銃をおろし。？？？

「すまないな。少々気が張つてて。まだ生存者がいたとはな。」

アルス

「いやいいんだ。

こんな状況だ！しかたない。俺の名はアルス。あんた見たところ警官だよな？名は？」

ジョージ

「ジョージ。ジョージ・ハミルトン。こんな状況だ。行動を共にしよう。よろしく。」

アルス

「ああ。よろしくな。とにかくこの鉄砲店に何かいい武器は？」

ジョージ

「いいや。もうみんな持つてかれちまつてる。街の奴らが護身用に持つてつたんだろう。」

アルス

「そ、うか……。じゃあ俺の「J」のM92Fにあつ弾はあるか？」

ジョージ

「まあ、あるとしたらこれだけだ。」

アルスは弾50発を受け取った。

アルス

「お前の武器は？」

ジョージ

「これだ。」

ジョージはアサルトライフルを見せた。

ジョージ

「俺の愛用のものでな。まあ一発の威力はないんだが、連射性能が高いから相手に反撃する余地も与えない。」

アルスは口笛を鳴らした。

アルス

「「J」の武器じゃ寂しいな。ん？」

ふと見ると、ロバート・ケンドの手にはショットガンがあった。

アルス

「お前の血懶のショットガンだな。親友としての頼みだ。これを貰つてつていいか？」

アルスはロバート・ケンドだつたものに話しかけた。

アルス

「すまねえ。貰つてくれ。お前の分も生きて、このラクーンシティから脱出してやるぜ。」

と言つて、アルスはショットガンを握りしめ鉄砲店を後にした。

アルスの持ち物

『ハンドガン

ハンドガンの弾×50

ショットガン残り4発』

ジヨージの持ち物

『アサルトライフル残り100%

アサルトライフルの弾100%』

怪物

アルス達は店をでた。

ジョージ

「警察署に行こう。あそこなら武器もあるだろうし、生存者もいるかもしない。何よりここより安全だろ?」

アルス

「そうだな。決まりだ。すぐいこう」

アルス達は警察署へ向かうこととした。

向かう途中。やはり何処に行ってもゾンビばかりだった。

アルス

「くそ! 邪魔くせえ奴らだ。」

と黙つてゾンビの眉間に三発うつた。ゾンビは動かなくなつた。

ジョージ

「アルス。無駄な戦闘は避けよう。この先もゾンビは沢山いるだろうからね。なんせラクーンシティの市民全員が相手だからな。」

アルス

「そうだな。邪魔なやつだけ消していく。」

と言い先に進む。

警察署の前まで來た。門を開けると、まだ真新しい死体があつた。

アルス

「これは…………」 ジョージ

「ブラッドさん!!」 その死体は口から後頭部にかけて大きな穴が空いていた。丸で大きな太い針で刺されたようだ。

アルス

「知り合いか?」

ジョージ

「ああ……この人はラクーン市警最高の特殊部隊S·T·A·R·Sのメンバーの一人なんだ。俺の先輩さ……」

アルス

「気の毒だな。」

ふと横を見ると、もう一つの死体があつた。ジョージ
「な……なんだこいつ……『テッデカイ』……ゆうに2メートル半は超すぞ！　まさかこいつに……いやじゃあ『ブラッド』さんは死なないか。てことは、まだ生存者がいてこいつを倒したのも……。」

アルス

「おい……」いつカードキー持つてるぞ。貰つとこひげ」

ジョージ

「お前……先輩を……」

いいかけた瞬間。

そのデカブツはむくつと起き上がり。ラクーンシティ全土に響き渡るかの声で

？？？

「スター——ズ——！」

と叫んだ。すると、ジョージを吹き飛ばした。

ジョージ

「うわあ——！」

壁に叩きつけられるジョージ。アルスは状況が理解出来てなかつた。頭の中が真つ白になつていた。すると

ジョージ

「アルス——なにやつてる……」こいつには勝てない……警察署に逃げ込め——！」

アルス

「ハツ——！」

アルスは我に帰り、そのデカブツのラリアットをかわし、ジョージ

と共に警察署へ逃げ込んだ。

アルス

「はあ…………はあ…………あいつは入って来てないな…………」

ジヨージ

「ああ…………しかしながらあいつは……！」

アルス

「いや…………だが待て。今のやつを殺していなかつたとはいえ、氣絶

さした生存者は凄い手練れなんぢやないのか?」の警察署に来ている可能性が高い。そいつをさがそつ。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0024d/>

生物災害

2010年10月9日03時23分発行